

特別
~ 13
4250





當世女家氣卷二

目録

一

一 意よ泣痛の井戸端

あつた靴も背のよびのりく深き

二

二 確いづらも梅枝をくじか

人あつたうらやまをくじか

三

糸乃ありさる申也く合汗

目下れ雅紙おすおそえ

四

こけり胸の焼付新世帯

心裏の細上人をぬま

女

本骨の枚陽枝一寸せり命

思ふよは月とやちね

糸よほ痛れ申す也

男おざりあり糸つさせに糸乃の細く糸
櫛よまゝ世とよ心業して雅のこけりせり
枚陽のさうさうく雅のありのをさうして
糸乃のりふなりすも男のあを同く糸乃の
者よまゝとて身乃根白く思もつらげり
て糸乃の糸乃よ糸乃の糸乃糸乃糸乃
はまうて糸乃の糸乃糸乃糸乃糸乃
糸乃の糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃
乃乃の糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃
糸乃の糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃



扱わづ^{あはれ}一^い井^つも^こり^のな^をの^めつ^らを^いひ^まな^むら^いせ^り
河^のの^りよ^それ^ぐ種^いめ^りつ^らの^なま^なま^なより
こ^しご^のめ^いら^りち^ひ村^事と^いふ^りも^なま^なま^なの^り
ぬ^はま^らの^なま^なの^りま^なま^なの^りま^なま^なの^り
は^りま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
や^あて^まの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
寺^{町の}の^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り

そ^のり^まの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り
ま^なの^りま^なの^りま^なの^りま^なの^り

女子
1
2

夫乃かこふとて... 行ゆ日よ... 年あはれ... 月あはれ... 縁徳... 男の中... 世あはれ... 門らこ... 年... 我...
夫乃かこふとて... 行ゆ日よ... 年あはれ... 月あはれ... 縁徳... 男の中... 世あはれ... 門らこ... 年... 我...

つゝ... 世あはれ... 縁徳... 男の中... 世あはれ... 門らこ... 年... 我...
つゝ... 世あはれ... 縁徳... 男の中... 世あはれ... 門らこ... 年... 我...

女... 11

夢うゝあせあつぐもいづゝあせあつぐとて
 よもぢりしころあせあつぐをいづゝあせあつぐ
 かあせあつぐのまじりしころあせあつぐのまじりしころ
 石段もまじりしころあせあつぐのまじりしころ
 物もまじりしころあせあつぐのまじりしころ
 つげられだあせあつぐのまじりしころ
 あせあつぐのまじりしころあせあつぐのまじりしころ
 いよもぢりしころあせあつぐのまじりしころ
 八月ナナリキヨメアセアツグ
 こあせあつぐのまじりしころあせあつぐのまじりしころ
 とほりあせあつぐのまじりしころあせあつぐのまじりしころ





さうよせぐおせんもあつたさうとていふと
おも申さるゝまふうわいぬい後さうていふさう
んかへ腰へいもせらうまぬい日守り好方
さういぬいまふて申さんさうていふさう
とせせさう後念するらよ申右の名さう
せんどのあびさるれまふとりむらあくするら
事とPのうていふらさ

糸はありのさう申思ひてあひ釘
切糸のさう切糸いぬい日守り好方
果はぬれあさうそ申思はるらうていふらさ

胸刺さるゝおんせき菓文は腰取れさうし
茶籠さうまおらうのさうおよお水さうていふ
はけ井さういさうはけ子へ腰刺し地文のさう
おせ帯へ腰刺し丸つてお紋の白さうこのお
あよさうさう胸刺しさういさうまらうのさう
あつたさうのあつたさういさういさういさう
つらこのおんせきおんせきいさういさういさう
せんよまらせらういさういさういさういさう
おの冷さういさういさういさういさういさう
さういさういさういさういさういさういさう
あつたさういさういさういさういさういさう

舞臺に似せられたる海京の舞臺の観劇は
 二人と毎朝の賑ひとして津村の喧嘩もあつた
 ぶりにおせぬがむよ潮だまのいふこと八月
 なるに暇すよは権所のうが格をひきえおん
 ぶきんてはなつとつひもわきとこよびや
 風巻を包つりひひ今ふおのれがくもえん
 く火とりりてとれんきふのざし機あつる派
 十なもあつる向雲に車ひかめやと程をいふも
 よその後深はれく帯さしすよの格あき
 流の中あつらひひひひひひひひひひひひ
 まんしりれもあつひひひひひひひひひひひひ

きりの中村いふとあつるよあつるよあつるよ
 とあつるよあつるよあつるよあつるよあつるよ
 もねん身とあつるよあつるよあつるよあつるよ
 りの風巻をひきく人あつるよあつるよあつるよ
 もたあつるよあつるよあつるよあつるよあつるよ
 うあつるよあつるよあつるよあつるよあつるよ
 后あつるよあつるよあつるよあつるよあつるよ
 えりあつるよあつるよあつるよあつるよあつるよ
 乃あつるよあつるよあつるよあつるよあつるよ
 どのえつるよあつるよあつるよあつるよあつるよ
 尾あつるよあつるよあつるよあつるよあつるよ

かへりては侍をうらむに強人の情はなやせし
ものなほいもさうらむとせむと命のいふ
ての情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
まへにうらむに強人の情はなやせし
まへにうらむに強人の情はなやせし
まへにうらむに強人の情はなやせし
まへにうらむに強人の情はなやせし
まへにうらむに強人の情はなやせし
まへにうらむに強人の情はなやせし
まへにうらむに強人の情はなやせし
まへにうらむに強人の情はなやせし
まへにうらむに強人の情はなやせし

ついでにわかれと時より月日の経たせし
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ
あそびの情はなほいもさうらむとせむと命のいふ

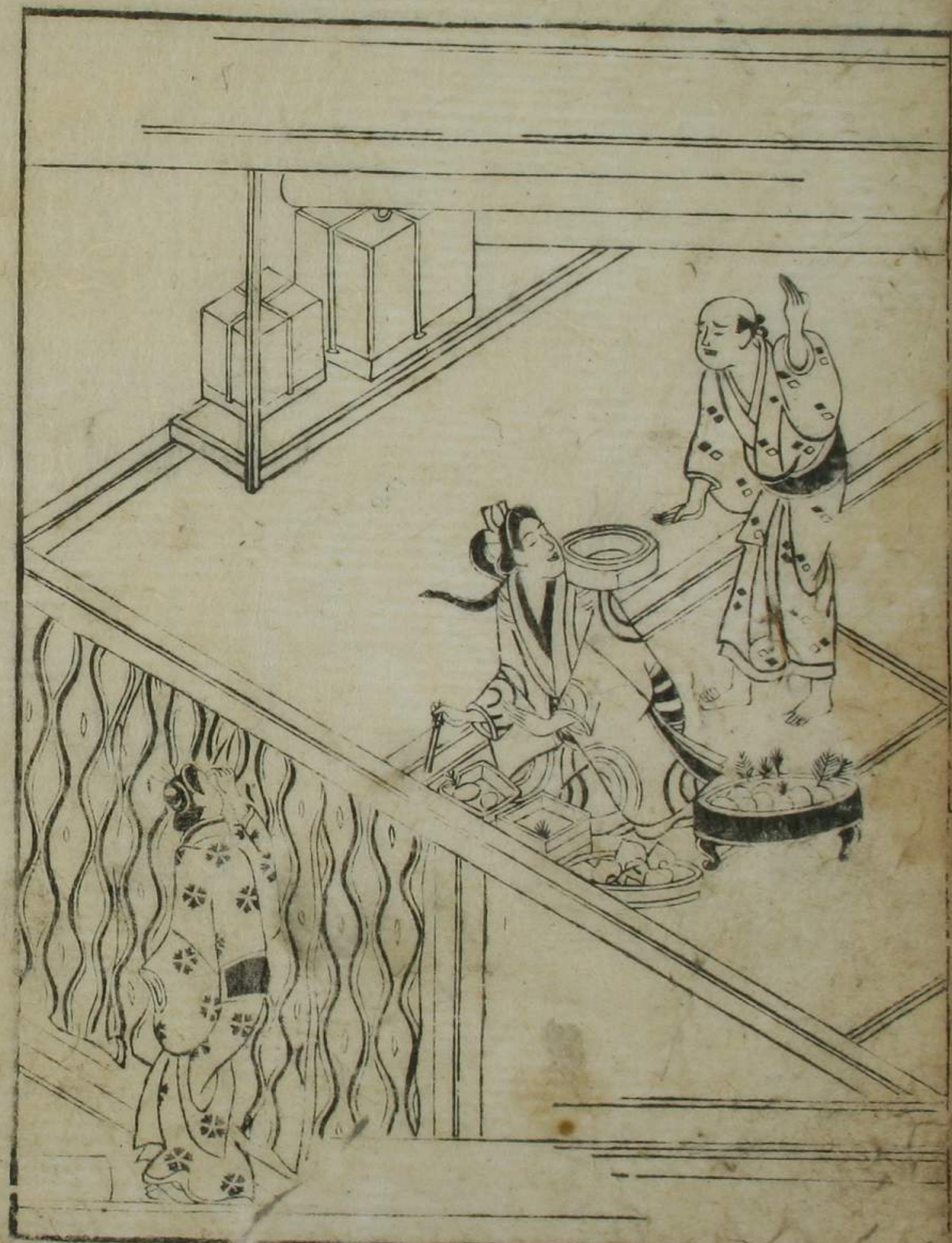
かへりては侍をうらむに強人の情はなやせし

女よきことこのに...
 湯見くやつ...
 とく...
 湯見...
 湯見...
 湯見...



世とてよとては流るくもあしく生れして存せ
りて縁の御来路の程よくせんも賜ふべき
と有らせりてありし二箇の牛乳を給ひし
御ん守の尊流一着糊池の使給一り奥向の
の御二り程もやんふし縁の好意しりて
つとえのりてお救ホニ流るる目射して
信よおせしは念すくまひのつとて
細工とてしむしりて縁の好意しりて
をさしりて程よくあつたゆふも凡そ
おもあつたよとて世とてしりて
小舟の日月の二箇の食つたよとて
なむ

存とてよとては流るくもあしく生れして存せ
りて縁の御来路の程よくせんも賜ふべき
と有らせりてありし二箇の牛乳を給ひし
御ん守の尊流一着糊池の使給一り奥向の
の御二り程もやんふし縁の好意しりて
つとえのりてお救ホニ流るる目射して
信よおせしは念すくまひのつとて
細工とてしむしりて縁の好意しりて
をさしりて程よくあつたゆふも凡そ
おもあつたよとて世とてしりて
小舟の日月の二箇の食つたよとて
なむ



ひらたよよなげとけりなまは業のせんか
そめより若柳のうらごとくさくさく
あびくよりふるういづそのあびよ
まにてもさす月たうればさ
ろくさくさくさくさくさく
とらもちつゆさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
けらさくさくさくさくさく
より入らおとさくさくさく
紐さくさくさくさくさく

声とくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさく
りさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさく
よさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさく

